

## 2 いわた安心つなげる隊が被災者アセスメント調査を実施

継続的な支援のため被災者の生活状況を確認

9月の台風15号の被災者に対し、継続的な支援を行っていくため、社会福祉協議会とともに「いわた安心つなげる隊」を立ち上げ全庁職員を動員して被災者宅を訪問し、現在の体調や住まいの状況について、実態把握を行いました。

### 1 概要（令和4年11月末時点）

- ① 対象世帯 232世帯 訪問件数 175件(75.4%) 調査済 128件
  - ・「床上浸水」「土砂」の罹災証明を交付した世帯
  - ・「床下浸水でかつ75歳以上のみ」の世帯
  - ・罹災証明を交付した世帯の近隣住宅で罹災証明等を申請していない世帯及び自治会長・民生委員から調査依頼があった世帯

- ② アセスメント結果による見守りの必要性トリアージ(N=128)

「世帯情報」、「生活状況」、「住居に係る今後の見通し」、「特に心配なこと」、「見守りの必要性（調査員の主観）」の点で点数化しトリアージを実施した。

【内訳】

A	重点見守り	0世帯	0%
B	通常見守り	5世帯	3.9%
C	不定期見守り	36世帯	28.1%
D	必要なし	87世帯	68.0%

### 2 調査から見えてきた声

「畳を張替えが終わり、日常に戻った」、「ボランティアの方が床下の乾燥の方法を教えてくれて助かった」、「車が納車され、外出しやすくなった」など、生活の再建が進み、体調不調や不安、心配を訴える方は少なく、見守りが必要な方は多くはなかった。中には見守りが必要な方もおり、下記のような意見があった。

- ①「からだ」の体調変化

被災によるアレルギー症状の発症や夜中に目が覚める中途覚醒が続く

- ②「こころ」の体調変化

片付けのことや降雨時には被災を思い出し不安になる

- ③ 特に心配なこと

片付けが進まないことや生活再建費、生活費が心配

### 3 今後の対応

- ・支援が必要な世帯は関係機関とケース会議を開催し、地域包括支援センター等で見守りを行うなど具体的な支援策を検討していく
- ・見守りが必要と判断された世帯は、相談機関や保健師等へ引き続き繋いでいく